

腹壁癒痕ヘルニアについて

神戸掖済会病院

外科部長 しのざきこうじ
篠崎 幸司

1. はじめに

今日は、腹壁癒痕（ふくへきはんこん）ヘルニアというやや聞き慣れない難しい名前の病気について述べさせていただきます。腹壁癒痕ヘルニアとは、腹部の手術の傷跡（癒痕）が、立ったときや腹圧がかかったときに一部が大きく膨らむ状態のことをいいます。腹部の手術のあとに起こる合併症の1つですが、比較的頻度の高いものとして知られています。

2. 原因

腹部の手術をするときには皮膚、皮下組織、筋膜、腹膜を切り、終わればそれらを縫合糸で縫い合わせます。中でも、最も腹圧を支えているしっかりした層が筋膜です。手術後に、傷の感染が生じたり術後の全身状態が良くなかったり、あるいは、もともと筋膜のつくりが弱かったりすると、この筋膜の癒合（ゆごう）が悪くなり隙間が生じる事があります。腹壁を構成している組織のうち、皮膚、皮下組織、腹膜はしっかり閉じたのに筋膜の癒合が悪く隙間ができてしまって、そこを通過して腸やお腹のなかの脂肪組織などが出たり入ったりする状態を腹壁癒痕ヘルニアというのです。出るといっても皮膚と皮下組織があるので直接出る訳ではなく、皮膚の下が膨らんだようになります。（図1）ほとんどの場合、立っているときによく膨らみ、仰向けに横になると自然に平

たく戻ります。筋膜の隙間のことはヘルニア門と呼びます。

3. 症状

ヘルニア門の大きさや出入りするものが腸か脂肪組織かによって、症状の有無と程度は変わります。まったく無症状のこともあります。鈍痛や消化不良の原因となったりすることもあり、自然には治らないので時期をみて手術をした方がよいとされています。また、まれにですが突然に嵌頓（かんとん）を起こすことがあります。これは突出した腸管が元に戻らなくなってしまう状態のことで、この場合ヘルニアの部位では強い痛みが生じ、お腹全体も腸閉塞という腸の流れが塞がれたようになって痛みと膨満感が出ます。嵌頓は、診断がつけばできるだけ早く緊急手術を行います。

4. 手術

治療はヘルニア門が小さければ糸で縫い直すだけの縫合閉鎖法を行いますが、この場合腹圧がかかってまた同じ部分に隙間ができる、つまり再発してしまうことが時々あります。大きいヘルニアに対してはメッシュやパッチなどと呼ばれる人工材料を用いた方法を用います。この場合ヘルニア門を無理に塞ぐのではなく、その隙間にメッシュを充填する（つぎ当てる）ように補強します。

（図2）ヘルニア門の上を覆うようにメッシュを置く方法と門の奥にメッシュをはめ込むようにする方法がありますが、奥にはめ込むようにした方が再発しにくいとされています。（図3）最近では、2層構造を持つパッチで、形状

記憶リングにより折れ曲がり難い特徴を持つ新しいタイプの人工素材がよく使われます。手術ではヘルニア門を内側からパッチでふたをするような形の仕上がりとなり、門を縫合閉鎖する方法と比較して無理な緊張のかからない方法と言えます。全身麻酔で約1時間の手術で、入院は数日から1週間です。これまでの方法と比べて、手術中の剥離が少なくすむので手術時間は短縮され、手術後の痛みも少ないと考えられています。パッチの裏面は、腹腔内の腸管と接することになりますが、ここは腸管と癒着しにくい材質になっています。再発という点では、メッシュを使用した方法は単に縫って閉じる方法より優れていますが、人工材料の欠点は細菌感染に弱いことです。ひとたびこのメッシュに細菌が付着して感染が起こると難治性です。特に、ヘルニアになった原因が腹部の手術創の感染である場合は注意を要します。この場合、ヘルニアを治す手術を6ヶ月から1年ほど遅らせて完全に創が治癒したことを確認してから手術を行うようにしています。腹壁癒痕ヘルニアは、患者さんにとってせっかく腹部手術を終わったのに再度手術という大きなストレスとなりますので、ヘルニアの再発や術後感染は何としても避けたいところです。このメッシュによる治療法は、縫合閉鎖により修復できないヘルニア門の大きな癒痕ヘルニアや感染治癒後のヘルニアの治療に対して、有力な手段となると考えられています。

5. 手術しないときには

ヘルニアが小さくて全く症状が無い場合や、手術を受けたくない場合、あるいは何らかの理由で手術できない場合は、経過をみることもあります。この場

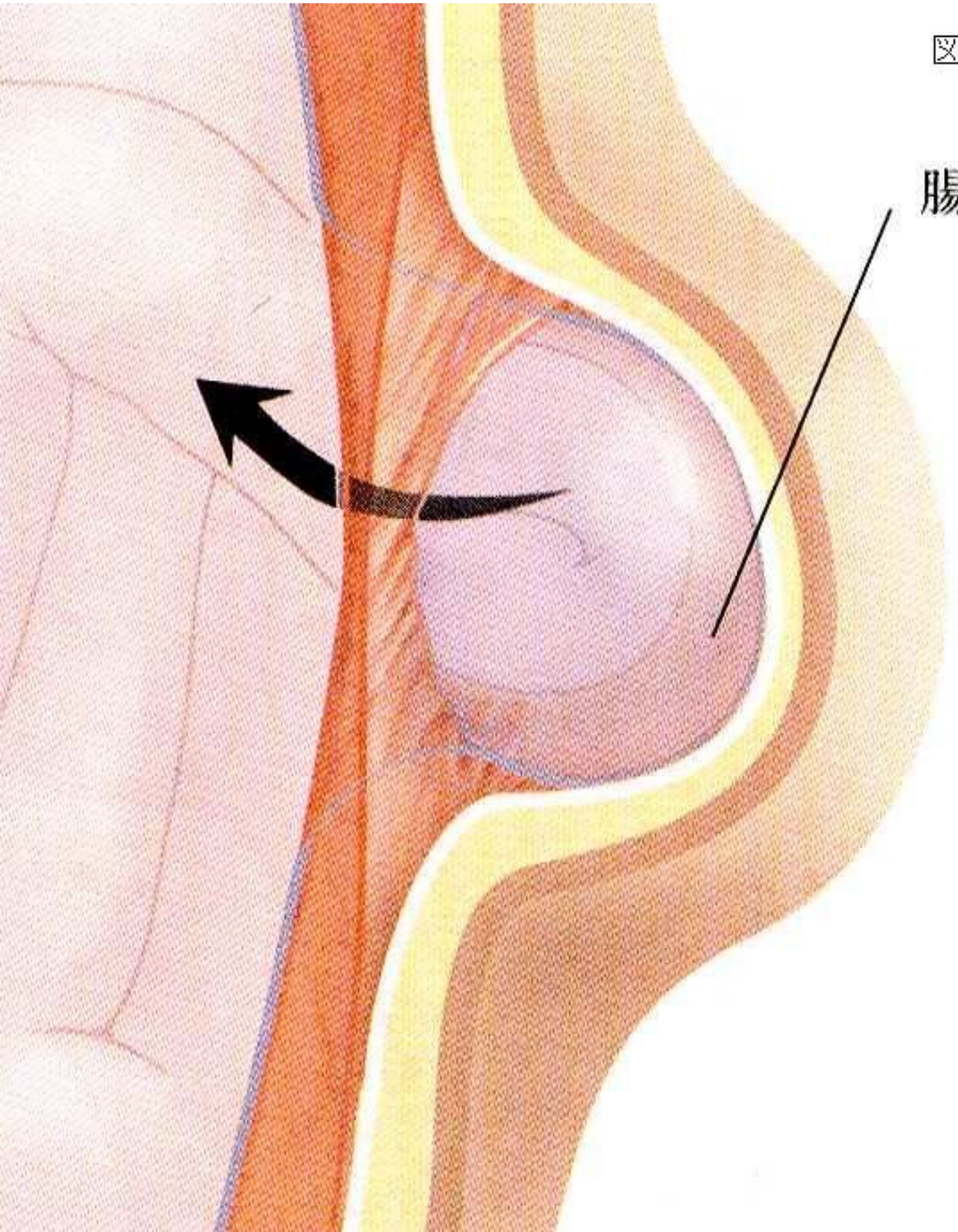
合は、ヘルニアをいつも出っぱなしの状態でおくのではなく、腹帯、固めの腹巻きなどで押さえておいた方がよいでしょう。近年、腹壁癒痕ヘルニア専用の補正下着も発売されています。外科的治療をせずに様子を見る場合は、必ずこれらの圧迫手段を講じることが、症状の軽減とヘルニア門の増大、増悪を予防するために重要です。この場合は定期的に医師の診察を受け、大きな変化がないかどうかをチェックすることも大切です。

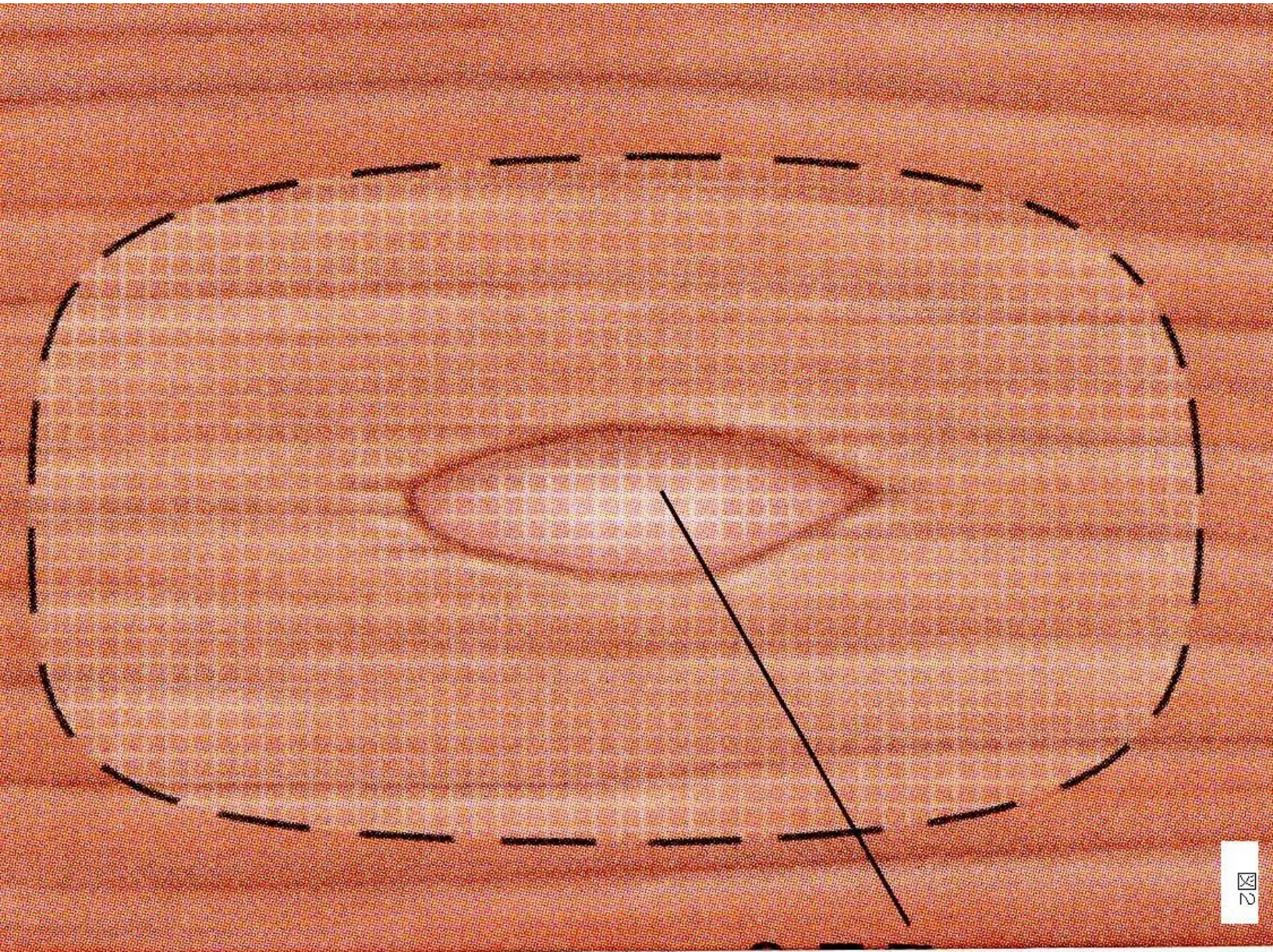
6. 最後に

腹壁癒痕ヘルニアは、サイズが小さい場合や無症状の場合、ご自分で気づかないうちに生じていることもあります。腹部の手術を受けられた方で創部のふくらみや皮膚が不自然に上下する感じがあって気になるようでしたら、医師に相談されることをお勧めします。

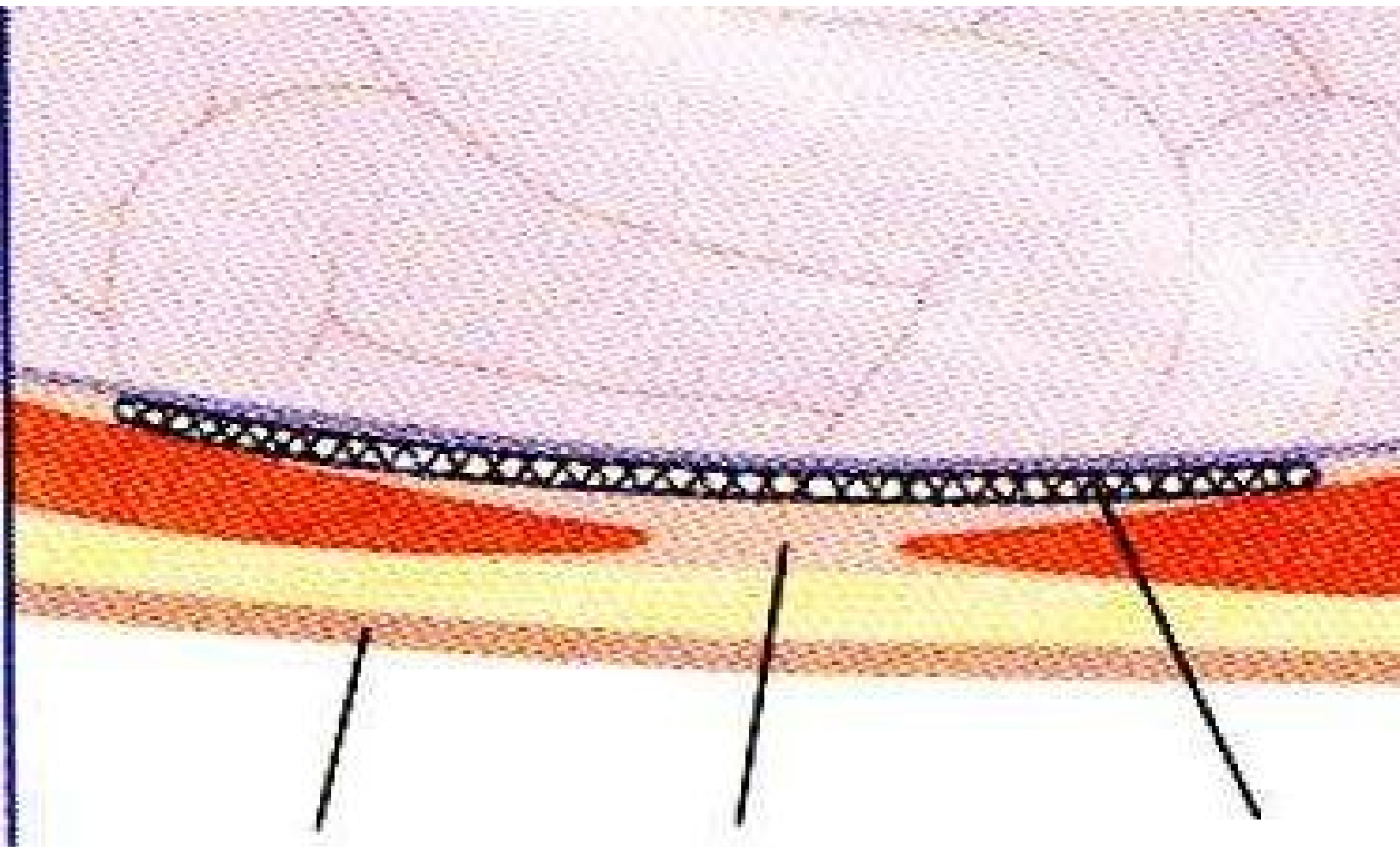
図1

腸管





へルニア門



メッシュユ

☒3

ヘルニア門

皮膚